

昭和37年12月3日
編纂人兼發行所
日縣立館代高等學校新聞部
印刷所 大膳掌印刷所

新校長 高柳信一



著任して流亡し、思つたのは校長を飾つた幾多のツツモが長年、誠に立派なものであり、他校に立派なものであつた。これら雄鶏の鳴が無のうちに振舞を激務してゐるには誠に難しい。この種し順と臣統を養へるには、並々な養育があるの故にこの苦勞は一面大

むけに、
はびまう、高原に産る、鹿より
を起した。以のこはこは
スボツたはてな、学校の第
の目標、を勉學に定めてはま
に、に當然、

私の妻、花子君に、自由法
律のつちを求め、と願して、
伸はつて手延え、

蚊帳の外
十 謝

が人間の世界には空想としか考へられない。樗を抜く、自由、楽しく生活出来、學問にたいへんのもので、
なむ奇樹信一 新校はは大農場から高になり、沖田鎮之助前校長大館鵬鳴高に赴任になつた。

能高祭

本年度前田正使会が福田健作を主として、明石洋一、重野副会長として四月十日、百六十六日及び五月十一日、十六日及び十七日に活躍し続けた。福田会長は「何事かを最善をつくす」という抱負を持って予算策定と能率施策を実施を中心に方針押し進められた。それに加えて、生徒会費目金値上げ問題と解決がけり新鮮な印象を与えた。先生会崩壊、去

化学系と見なされる者がいた。

4. 提示、催物、警察生徒の同味さ、同好がなくなった。

5. 全体、同好が薄くなったのは伝説りになったからで、バラバラに協力してもらい、市内の進歩飛手です。きたった。

6. 実は委員、有名無実の存在であった。しかしこれらは

前期生徒会

生徒会費値上げは適切

文化部に重点を置いた予算

年度使費が、千円上げられ
千円下げられたが生徒の
心も良し反対もあったが数の
多寡を以て討論され賛成に絶
たぬ多数承認された。この議
題は千五年度まであり、その
後は千円上げられていた。
同年度の駆けつけ年間約九六
万円が加えられ、各部予算も幅
が増えた。特設文庫では「新書
部」が設けられ、各課長が主
張した。この頃には、

減額された文庫には無いといった
文化部力を入れた組み方だった
能高宏治が文庫部の課長とな
り発表会が受け入れを促して、な
お経団同好会の幹部動きかけや同
人難航し、発刊に苦労しながらの動
きで運動になったことが吉吉に
ある。また運動部もバレー、柔道
などの活躍の原動力になっていた
千円上げは、いろいろな面から



全役員が立候補で

会長に石川君

長きま女校生になつてゐる。最近お茶を淹れださうと、最上段裏手は去る月月中旬に抱負を述べ引、続いたわかれの模様決定した。

今年度慶應生正副議長及び庶務正副委員長は去る月月中旬に抱負を述べ引、続いたわかれの模様決定した。

▽副議長　石川　　　信宏（２Ｆ）
△議長　小林美男（２Ｂ）
▽成岡部長　小松　世和（２Ｆ）

直してこれよりエネコ新聞の生活新員が、期せずしての生命延長に際し、成岡部長は前部長候補松井和朗、副議長には藤

巨濤の編集

れるだ
い木校
に立て
会長は
たい。
部の小
厳君が
C組 熊登 裕一 D組 戸松 幸子
A組 熊合陽三 B組 岡俊春
以下各ホームで決定し
た出版委員欠の通り。
一年

りちん

時評

「内市場占有率四」じき、日本のかけのメカ
%といふのが営業理
店の戦略、例は次の
うに立つ。「捨をせよ」
ム大使、せよ」「コン
トで使へば」「流す
て」等々。さあ、も
すげでうらまきけ
られても、あまのど
ろ」

郎

といふ荒潮な時代感
去つて過剰生産とい
何せ広告が人生に
スト、ダウンに
る

させろ

「捨て高橋」
う。し中につては
も人に性なじつに
は完全にレクたされお
食料品り、うかりてゐるが、
己れまが簡便化してまう
たけず、このまを考へて
と、スキーの手れも、気な重
業者が、とすまい。

願書受付変更

▼後期生
役員選挙
を終了。
れ「新旧
使役員
願ひが、さ
つが変つただけであつた。合併役員選挙の最も収得

重点

[illegible]

リスマスケーキなら

エーワン・ベーカーリー

安岡カメラ店

柳町 T 一〇七九

クリスマスプレゼント

贈つて喜ばれる

吉田時計店

柳町

opt pen

力
モ
ヤ

TEL 464

あらゆる文房具の店

塚清紙店

TEL 1256
35

ポリウーームのある写真は

TEL
339・215

写真唐津

クリスマスケーキなら
エーワン・ベーカリー

電話 一五六一〇〇（工場）

安岡カメラ店

時計と万年筆なら
クリスマスのプレゼント
贈つて喜ばれる

吉田時計店

柳町